

おすし

2024年5月
第749号

日本基督教団 平塚教会
発行人 平塚教会
編集人 中山洋司
〒254-0045 平塚市見附町6-18
電話 ○四六三(32)八八三一



天への凱旋

平塚教会牧師 北川一明

愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。

(ヨハネ一四・18)

四月第三週、お二人の教友の葬儀が二件続きました。お一人の教会籍は平塚教会ではありません。もうお一人は喪主を務めるご遺族のなにかたです。それでもおふたかたとも平塚教会の名前を通して天にお送りすることができて感謝しております。

死は「永遠の御国への喜ばしき凱旋であり、嘆き悲しむ必要はない」とキリスト教会は教えます。しかし死後の世界は見えません。本当に凱旋したのか確認できないので動揺するのやむを得ません。

嘆き悲しんではいけないのではありません。「故人の魂の平安」という視点では嘆き悲しむ必要がないと

いうだけです。人の死は、それまでの生活のありかた次第では大きな喪失感になります。残された者が葛藤や不条理感を乗り越えるには、一度深くきちんと嘆き悲しむことが有益である場合がほとんどです。葬儀はそうした区切りをつけるための通過儀礼です。

自分から悲しむのは良いのですが、平静にしていると「あの人は冷たい」と陰口されて悲しむことを強要されるように感じる場合があります。世俗社会は、死を悲しまない人が身近にいと不安になるのです。

私は自分の司式する葬儀で両親を送りました。葬儀では一切悲しみを感じませんでした。司式を滞りなくつとめあげること集中せざるを得なかったため、その余裕がなかったのです。そのためか葬儀の後で重い気持ちはずいぶん長く続きました。克服に時間がかかったのは、自分の司式で送らせていただけ喜びのために支払った正当な代償と考えて納得しています。司式でなくとも喪主の務めに神経を使って悲しめないことは多いでしょう。悲しむタイミングはいつでも良いのです。

葬儀などの儀式のやり方で、牧師は大きく二つのタ

目次

天への凱旋	牧師 北川一明 …1	四月に再開しました	…4
17名の園児を迎えて入園式	…3	訃報	…4
幼稚園は、今年百周年を迎えます	…3	編集後祈	…4

イブに別れます。主日礼拝の服装で大別できます。一方の極端は、ローマンカラーのシャツで礼装した上にガウンをまとい、さらにその上にストールをつけるタイプです。もうひとつは、Tシャツにジーンズなど庶民的な姿で司式するタイプです。前者は信仰の聖性を重んじ、後者は信仰を日常の中に活かそうとしています。ジーンズ型には権威に対する個人的な反発があるかもしれません。ガウン型には「社会の期待通りに牧師らしくし振る舞っていれば無難だ」という保身の思いがあるかもしれません。

聖性を守ることも、信仰を実生活に位置づけることも、どちらも大切です。一方権威に反抗することや社会の期待に応えることは宗教の本質ではありません。ただ、葬儀は地域社会での役割も担っています。キリスト者でなければ信仰よりも通過儀礼の効果も期待します。遺族にとっても、取引先や親戚の手前、上辺だけでも社会的な形をなぞってもらわなければ困る場合があります。だからジーンズ派の牧師も礼装で葬儀するのが普通です。

祭壇を生花で華美に彩り、有力者の弔電を延々と読み上げ、参列者が沈痛な面持ち

を極端に強調すれば、儀礼的には良い葬儀になるでしょう。しかしキリスト教会はそうした演出を嫌ってきました。社会的な役割をこなすよりも、参列者の明日からの日々の生活に信仰の慰めと励ましをもたらす方が大事です。

葬儀説教の目標は「故人の生涯を神がいかに恵みをもって導いたか」を伝え、それによって遺族に永遠の命の希望を抱いていただくことです。牧師が遺族から経歴をうかがうのは、故人の略歴を披露するためではありません。経歴から故人への神の祝福を見出すためです。

H K兄については、教会員のみなさんはあまりご存じないようです。任意後見人になることが公的に予定されていた行政書士法人の担当のかたが喪主を務める葬儀でした。

ご遺族が葬儀に参列しないことから、人生の中盤では辛い課題に直面したことが分かります。後にヨハネ一四・18を通して「愛に勝る人生の薬はない」と感じるようになったのにはS K姉の存在が大きかったと思われる。「神の恵みは限りなくとも、赦されるべきか」の罪人は」なる讚美

歌（一二四六）を愛唱しておられたと聞いて、お子さんがたとうまく関係をとれなかったことが真剣な悔い改めにつながったことを知りました。罪を悔いる中で「**如何で棄つべき、惑はで来よ**（同3節）」と招く神の声を聞き、教会と霊的につながっていることがますます大切になったのです。

私が訪問すると「異様に」といって良い程喜んでくださいました。お連れ合いだったS K姉が牧師のことを肯定的に伝えておられたのでしよう。おかげで教会にほとんど来れなくなっても、なお教会に対する好意好感を保ち続けることが出来ました。

行政書士法人のみなさんには相当なご苦勞をおかけしたようです。それにもかかわらず、S K姉のご葬儀の折にはH K兄と行政書士法人のみなさんとが相互に親しく配慮し合っておられました。悔い改めた後の生き方は、いちだんと人を思い遣るものになっていたのです。H K兄を通してキリスト教に触れた行政書士法人のみなさんに、よき証しをしてくださいました。愛され惜しまれつつ逝くことができ、平安のうちに次の世に移ったと信じます。

17名の園児を迎えて 入園式



園長先生のおはなし

教会の塔が青空にくっきりと浮かび、神様の祝福が感じられます。

入園式の会場は幼稚園ホール。新入園児たちは、車座に並べられた席に座り、その周りをご両親や来賓・教職員の皆さんが囲んでいます。ピアノの演奏が始まり、若林由美主任の司会で式が始まりました。

賛美歌「ちいさいおてて」を皆で賛美しました。園長先生お話の後のお祈りでは、「このお祈りをイエス様のお名前によってお捧げします」と、大きな声を出して祈っているのにびっくりし、17名の園児たちは、「もうすでに二葉っ子になっているのだなあ」とつくづく感じました。

幼稚園の入園式は、小学校から大学と違ってほのぼのとした温かさが流れています。園児たちが飽きずに過ごせるように、例えば入園児一人ひとりの紹介では、呼名をしながらプレゼント（こどもさんびか）を渡したり、楽しく手あそびをしながら歌うなど、細やかな配慮がプログラムに組み込まれています。

今年百周年を迎えた幼稚園、その節目の年の入園式、神様がともに歩んでくださり、神様の祝福が一人ひとりの園児たちに、保護者と働く教職員の皆様に、そして平塚二

葉幼稚園に永遠に注がれますようにと祈ります。

幼稚園は、今年百周年を迎えます

平塚市で最初に創立した附属平塚二葉幼稚園は、今年度創立百周年を迎えることとなりました。そのため、幼稚園内に実行委員会を設置し具体的な協議を行います。

【実行委員会メンバー（5名）】

- 幼稚園長（北川牧師）
- 教職員代表（佐藤教諭）
- 幼稚園保護者代表（山口会長）
- 教会役員代表（星野役員）
- 幼稚園理事代表（日下部理事）

なお、具体的な内容の概略は、

- ・創立百周年記念日礼拝
- ・満三歳児受入保育室の新設
- ・バンブーアート製作
- ・これからの幼稚園への展望
- ・その他

となっております。皆様の祈りの内にお加えいただけましたら幸いです。

4月9日、午前中平塚は強雨のため、開始時刻を午後に変更して附属平塚二葉幼稚園入園式が行われました。

取材のため幼稚園を訪れますと、まず目にしたのが、教職員の皆さん総出で、強雨のため園庭中のあちこちにできた水溜りの雨水を、スコップ・塵取り・バケツなどを手にして除去していました。来賓の庄司幸夫役員も一緒にお手伝いをしてくださいました。

今年度の新入園児数は17名。園児たちは、12時45分頃からご両親と一緒に「入園式」と書かれた案内板を通って登園してきました。登園時には、平塚の空は晴天、

四月に再開しました

5年以上の年を経て、「うどん会」と「さん木かい」が再開しました。



トッピングは何にしようかな

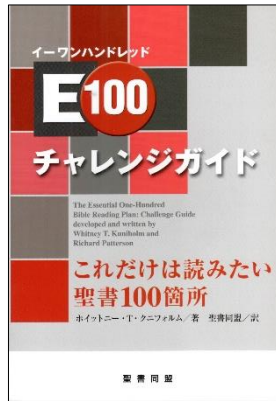
「うどん会の皆様お帰りなさい。お待ちしておりました」

あの懐かしいふるさとの味「平塚教会うどん会」が、西田薫姉とご奉仕をして下さる皆様のおかげで、4月7日一階多目的ホールに装いを新たに帰ってきました。感謝いたします。

多目的ホールに集った皆さんは、久しぶりにうどんやそばを食しながら、お互いの話に花が咲き、和やかな雰囲気部屋いっぱいになり広がっていました。

新たな装いの特色は、セルフサービスが基本となったことです。「注文↓受取り↓トッピング↓片付け」を自分で行います。トッピングは六種類（今月は、ネギ・青物・ナルト・あげ・揚げ玉・もやし）から自由に選ぶことができます。

メニューは、うどんとそば。大盛・普通盛（300円）小盛（200円）です。第一週を基本としていますが、都合により変更がありますのでご承知おきください。



テキスト表紙

4月18日、5名が出席して「さん木かい」が開催されました。

テキストは、コロナ以前に扱っていた書籍を題材に、聖書の基本を学ぶことを目的

としています。

とても分かり易いテキストで、本書を読んで自分の考えを黙想し、その黙想を基にグループディスカッションを行い、さらに自分を深めていくことを基本としています。牧師先生からは、「自分自身を深めて行く事が目的です」と言われました。

毎月第三木曜日10時開始です。よき学びの時間を共にいかがですか。

計報

川島英雄兄（教会員）

4月8日逝去 4月15日葬儀

佐柳光代姉（客員 静岡稲取教会会員）

4月10日逝去 4月15日告別式

※川島兄・佐柳姉ともに、北川牧師が葬儀を執り行いました。

【編集後祈】

5月号の発行が教会総会と重なりました。2024年度は、創立百年を超えていく幼稚園の新たな旅立ち、そしてコロナと共存しながらも、コロナに負けない教会員同士の交わりが、主と共に前進する年でありますようにと祈ります。

（編集子）